



コーヒーの果肉を取り除く機械が村に届いた

わかちあいプロジェクト

NEWS No.11
1998 May



バプテスト監督学校の学生が、コーヒー豆のアルバイトに励む

タイの奥地のコーヒーづくりを訪ねて

益 巖

わたしの朝の食事はパン食である。パンと牛乳、そして少しの果物である。その食事の後に、コーヒーを沸かして飲むひとときが、朝の楽しみとなっている。最近では、このコーヒータイムにタイのコーヒーを飲むことが楽しみとして加わった。それは、わかちあいのリーダーである松木先生と一緒に今年の3月にタイの地を訪ねることができたことによる。このタイのコーヒーは、タイの北の都市チェンマイから、

更に車で5時間くらい走った山奥でつくられていた。私自身は、このタイの山岳地帯に行くのは2回目である。最初は今から12年前のことであった。その時、タイの奥地に入って行き、電気のない所であったが、夜になると、暖炉を囲んで豊かな時間がもてたことがいつも心の中に残っていた。それ以来、この山奥の村をもう一度訪ねてみたいという思いは心の奥底にずっと残っていた。そして、思いがけず今年に入って



タイの奥地で村の人たちの生活の自立のためにコーヒーづくりをしていくマンさんに日本で会うことができ今回の訪問となった次第である。

タイは3月の下旬であるが、バンコクはもう夏夏であった。しかし、タイの北部の山岳地帯の夜は冷え込みが強かった。わたしたちが行った村では、その村の長老の家に泊まることができたが、その村では夜になると、その長老の家に集まり、集会が持たれ、賛美の歌があふれ、豊かな交わりができた。かつては暖炉、今は電気の明かりという違いはあるが、村人の素朴さと、暖かさには変わりはない。

しかし、この村にも確実に変化の波が押し寄せているようである。それは、タイのどんな山奥にも電気が引かれており、テレビにより、都市の状況が伝えられているからである。それは村の人々にとっては、文明の恩恵に預かる生活への思いが強くなることであろう。それは、村の生活を安定させるコーヒーづくりにもあてはまることであろう。村の人たちが現金収入の道のひとつとしてコーヒーづくりを始めているが、それは、従来の村の人たちの生活の中で、互いに助け合いながら生活をしていくという生き方は違ったあり方が出て来るのではないかという危機感をもった。



写真：
コーヒーの苗木をもつ益さん

出荷までの厳罰

- ①収穫する
- ②コーヒーの果肉を取り除く
- ③果肉をとってから天日で乾燥させる
- ④さらにパーチメントという乾燥とシルバースキンという薄い皮を機械でとり
- ⑤豆の大きさを別々に分ける機械をとうし
- ⑥最後は人間の手で悪い豆を取り除き
- ⑦麻袋につめる
- ⑧運送業者、輸出業者に依頼してバンコックに運び
- ⑨コンテナに積み日本まで

右下
チェンマイのバプテスト教会の敷地内につくられた集荷センター。座っているのはFLOのスタッフのオラフさん

しかし、どんな山奥にも電気が届く波は止まることはない。すると、村に持込まれる文明の波を村人が賢く対処していく他はないのであろうと考えていた。それは、コーヒーづくりにもあてはまることである。コーヒーづくりにより、現金が村にはいってくる。それをどのように分配をし、また村の人も自身が自らの判断で将来計画をつくっていく段階がやがてくるのだと思う。

村では急な斜面を切り開いてコーヒーづくりをしている場所を見ることができた。斜面を切り開き、そこにコーヒーの苗木をいっねいに植えていくことは、相当な苦勞があることは容易に察せられた。また各村で作られたコーヒーが集められたセンターでは手仕事でコーヒーの豆がその大きさによって分けられている。それはたいへん、時間がかかるしまった根気のいる仕事であった。一日コーヒーの豆の大きさを選り分けて得られる収入は成人男性で、240円だとのこと。その仕事の苦勞を見ながら松木先生が一言、どうしてコーヒーなど飲むのだろうと。

同感である。しかし、わたしは今後も、タイの山岳地帯でつくられたコーヒーを飲み続けることだろう。今日も村人たちを思い返しながら。(日本バプテスト神学校教師)



●タイコーヒーの将来

タイコーヒーの将来は、素人を許さない。現地での品質管理、日本でのマーケティング。素人の怖いもの知らずで、現在まで邁進してきました。

1月にはマンさん夫妻を東京に招き、3つの村とチェンマイ大学から購入する8トンのコーヒーをどのようにして販売するか、皆さんの知恵とアイデアをかしてくだい。

来年にはFLO(Fair Trade Labelling Organizations International)に生産登録してトランスフェアのロゴマーク付になるよう準備します。アジアから最初に登録されることになりました。

